



# きざき

題字：寺尾 貞男 氏（笹山）

令和3年5月26日



令和3年度 第2号

## セレンディピティ

校長 増井 一久

スペンサー・シルバ氏がお亡くなりになったとのニュースが流れました。

皆さんは、氏がどのような方かご存じですか。

スペンサー・シルバ氏は、今やどこでも、そして、誰もが使う「ポスト・イット（付箋）」の生みの親です。

今から約50年前、氏は、「強力な接着剤をつくる」という開発目標に向かって実験を繰り返していました。ある日、意に反し「非常に弱い接着剤」ができてしまいました。このような時、「何で強力にならないのかな、次こそ成功させるぞ！」と気持ちを切り替え、当初の目的に立ち返って開発をやり直すケースが多いと思います。しかし、氏の同僚であるアーサー・フライ氏は非常に弱い接着に着眼し、「本の葉に活用できるのではないか」と提案し、その開発が進められ、ポスト・イットが商品化されました。その後、日本国内でもサイズやデザインなどの改良が進み、今や仕事場だけでなく、プライベートでも欠かせないアイテムとなっています。

失敗から生まれたポスト・イット開発のエピソードはあまりにも有名です。きっと皆さんもご存じのことだったと思います。

さて、先ほどのポスト・イットのエピソードのように、ある偶然から生まれた成果のことを「セレンディピティ」と名付けた人がいます。イギリスの政治家、小説家のホレス・ウォルポール氏です。時は18世紀の半ば、氏が子どもころに読んだ『セレンディップの3人の王子』という童話を参考にして造り出した言葉です。日本語では、「偶察力」と訳される場合もあります。

「棚からぼた餅」ということわざがあります。結果として幸運が訪れるという点においては、セレンディピティと共通しています。しかし、セレンディピティはある段階において、幸運を呼び込むための思考を働かせる場面があります。ということは、棚からぼた餅は「やってくる幸運」であり、セレンディピティは「呼び込む幸運」であると言えます。

木崎中学校の東淳也校長先生は、今年の入学式式辞の中で「成功の反対は『失敗』ではありません。成功の反対は『何もしないこと』です。」とおっしゃいました。とても心に響く言葉でした。目標に向かって努力することの尊さ、そして、たとえうまくいかなかったとしても、そこから生まれる新たな価値の発見、これは正にセレンディピティに出会うことだと思えます。

今号では、今年度の学校の重点目標と取組について紹介します。これまで私たちは当校の数値目標が達成できたかに一喜一憂していましたが、セレンディピティの視点も取り入れることで、予期せぬ成長についても皆さんとともに喜び合う機会が増えるのではないかと思います。引き続き、当校へのご支援をよろしくお願いいたします。

# 令和3年度 木崎小学校の重点目標と取組

「夢を描く力」を育む木崎小学校の教育を推進していくために、「資質・能力&授業力部」「自立&支持的風土部」「健やかな体づくりの推進部」「特別支援教育部」では、次のような活動に取り組んでいきます。



## ①資質・能力&授業力部

### 【現状と課題】

- ① 前年度、生活科・総合的な学習の取組を見直し、地域の魅力を生かした学習活動を展開しました。今年度も子どもたちが「人」「こと」「もの」と積極的に関わりながら、主体的・協働的に学ぶ姿を目指します。
- ② 帰りの会の10分間を活用した「ステップアップタイム」の取組を通して、家庭学習の習慣が定着してきました。全校テストや日々の学習を重ねてさらなる学力の向上を目指します。

### 【重点目標】

- ① 自分で課題を見付け、主体的・協働的に学ぶ子どもを育てる。
- ② 自分で計画を立てて家庭学習に取り組み、自分の力を伸ばす子どもを育てる。

### 【目標達成のための手立て】

- ①-1 子どもたちが自ら課題を見付けて主体的に課題に取り組めるように、地域の「人」「こと」「もの」と積極的に関わる単元の構成や学習内容を計画します。
- ①-2 友達と協力しながら主体的に学習を進めるための話し方・聞き方・書き方を「学びのスキル」として各学級に掲示し、学年の発達段階に応じて継続的に指導します。
- ②-1 「ステップアップタイム」で家庭学習の計画を立て、取り組みます。毎日の学習の復習や全校テストに向けての学習など、どんな家庭学習に取り組むとよいか、担任が継続的にアドバイスします。

## ②自立&支持的風土部

### 【現状と課題】

- 自己評価で、「自分にはよいところがあると思いますか」という問いに、肯定的な評価をしている子どもが増えてきています。今年度も、さらに自分に自信をもち、友達にも思いやりの心で接することができる子どもを目指します。

### 【重点目標】

- 子ども一人一人を多面的に理解し、子どもに良さを伝えることで自己肯定感を高めるとともに、子どもとの信頼関係を築く。

### 【目標達成のための手立て】

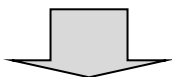
- 全職員で子どもの頑張っているところや良いところを褒め、認め、声掛けを繰り返すことで、子どもに自信をもたせ、自己肯定感を育みます。
- 縦割り班清掃の反省会で、子ども同士で互いに頑張っているところ、良かったところを発表し合います。その良さを、目に見える形でも伝えます。また、学級での係活動、委員会活動や清掃、クラブ、縦割り活動等をやり切ることで、達成感・自己有用感をもたせます。



### ③ 健やかな体づくりの推進部

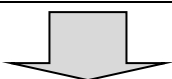
#### 【現状と課題】

- 約10年に渡り続けてきた「弁当の日」は、平成29年度から全校で実施して、力を入れて取り組んでいます。実施後の児童アンケートでは、90.1%が「食に関する関心、理解が深まった。」と答えています。子どもたちは、弁当作りを通して家族とのコミュニケーションを深め、自分の食事に関心を持つようになってきています。



#### 【重点目標】

- 食で、健康・栄養面での理解を深めるとともに、食に関わる仕事（生産・調理）に対する感謝の心、主体的に家庭生活に関わろうとする態度を育む。



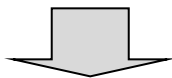
#### 【目標達成のための手立て】

- 「弁当の日」に全校児童で取り組みます。各学年教科を横断して、食に関する学びを深めていきます。
- 自己の成長を実感するために、食を通じた学びをタブレット等で蓄積していきます。
- 栄養教諭によるランチタイム指導で、望ましい食習慣についての指導を行い、給食の時間を活用して、児童の食育についての意識を向上させます。

### ④ 特別支援教育部

#### 【現状と課題】

- 個々の児童の課題が多様化しています。多様な児童に対応するため、個別の指導計画や教育支援計画を作成し、それを活用していく必要があります。
- 多様な個性を尊重できるように、児童同士が認め合う活動の設定が必要であると感じています。



#### 【重点目標】

- 自立と社会参加を目指した適切な支援を行うとともに、児童同士が互いの理解を深め、多様な個性を尊重できる環境作りを行う。



#### 【目標達成のための手立て】

- 自立を促す支援ができるように、個別の指導計画等を作成し、全職員で情報の共有と評価、見直しを行います。
- 道徳などの時間に、特別教育支援部による「思いやり」や「個性尊重」についての出張授業を行います。

# 令和3年度 「夢を描く力」を育む 木崎小学校教育ビジョン

## <教育目標>

<すじみちを立てて考える子ども><明るく思いやりのある子ども><からだをじょうぶにする子ども>

(重点課題)

意欲的に考える子ども

きまりを守り自他を尊重する子ども

健康的な生活習慣を身に付ける子ども

### 学力の向上

- ・児童の「解決したい」という思いを大切に、「探究的な学習の充実(総合)」「思いや願いをもち意欲的に課題に向かう姿(生活)」を具現化する授業をつくる。

### 豊かな心

- ・児童一人一人を多面的に理解し、児童の良さを伝えることで自己肯定感を高めるとともに、児童との信頼関係を築く。

### 健やかな体

- ・食で、健康・栄養面での理解を深めるとともに、食に関わる仕事(生産・調理)に対する感謝の心、主体的に家庭生活に関わろうとする態度を育む。

- ・探究の過程〔①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現〕を意識した単元構想をし、機器の活用を効果的に取り入れた授業を公開する。(各学年・年1回)
- ・児童自ら課題を見つけて、主体的・協働的に学ぶ授業づくりについて研修を行う。(年1回)

- ・全職員で児童の良いところを積極的に見付けて、声掛けを繰り返す。(随時)
- ・学級のグループや縦割り班での清掃の反省会で、児童同士で互いに頑張っているところ、良かったところを発表し合う。(清掃時)

- ・弁当の日に向けて、各学年教科を横断して、食に関する学びを深めていく。(年間を通して)
- ・自己の成長を実感させるために、食と身体、食と地域、食と家庭生活などの食を通じた学びをタブレット等で蓄積していく。
- ・栄養教諭による食にかかわる指導で、望ましい食習慣について指導を行い、給食の時間を活用して、児童の食育についての意識を向上させる。(年間1回)

### 特別支援教育

自立と社会参加を目指した適切な支援を行うとともに、児童同士が互いの理解を深め、多様な個性を尊重できる環境作りを行う。

- ・自立と社会参加を目指した個別の教育支援計画並びに個別の指導計画を作成し、全職員で情報の共有と評価、見直しを行う。(年2回)
- ・道徳などの時間に、特別支援教育部による「思いやり」や「個性尊重」についての出張授業を行う。(年1回以上)

### <支持的風土の醸成>

昨年度は、笹山小学校との統合があり、児童にとっては、地域が広がり新しい友達が増えた一年間であった。友達の個性や良いところを理解し、さらに良い人間関係を築き、自他を大切に、温かい木崎小学校の具現を目指す。

- ・「自立を促す生徒指導の推進」を中核エンジンとして、学級・学年・縦割りの様々な活動を通して、校内に支持的風土を醸成する。

### <保護者や地域と共に歩む開かれた学校>

- ◎旧笹山小学校区民にも活動を広く知って参加いただき、新しい木崎小パートナーシップ事業はどうあればよいのかを考えて実践していく。
- ・地域教育コーディネーターを中心に、積極的に地域の人材活用に努め、保護者や地域との協働を進める。
- ・学習支援ボランティアや地域の人材を生かした食育を充実させる。
- ・生活習慣改善に向けた生活リズム、食事、ノーメディア等の強調週間等で家庭との連携を図る。